

校 園 名：山口大学教育学部附属山口中学校

所在地：〒753-0070 山口県山口市白石1丁目9番1号 電話番号：083-922-2824

記載日：2016年5月17日

記載者：濱崎 幸貴

記載者役職：副校長

本校の校風、おおまかな特色について：

本校は昭和22年4月に山口師範学校男子部附属山口中学校及び新制山口青年師範学校附属防府中学校として発足し、常に最先端の教育研究・教育実習を実践してきた。

附属中学校が営々と培ってきた建学の精神 「たくましい心・美しい心」 は時代を超えて万人に共有されるものであり、今なお受け継がれている。

○研究校として

一昨年度までの3カ年 研究主題「考え続ける生徒を育てる授業」

昨年度からの研究主題 「学ぶよろこびを実感する授業の創造」(2年次)

○教育実習校として

年間約300名の実習生が本校で教育実習を行う。

将来、教員を志す学生の教育実習とその指導を行い、数多くの教員を養成し教育界へ送り出している。

○義務教育校として

教育目標「時代と社会に主体的に貢献できる生徒を育成する」

①創造的な知性と判断力を身につけた生徒の育成

②自他を敬愛し、進んで奉仕する生徒の育成

③たくましく生き抜く力を身につけた生徒の育成

本校の卒業生の活躍状況について：

- ① 追跡調査は行っていない。
- ② 同窓会名簿作成時にある程度把握している。
- ③ 山口市を中心に全国で活躍している。

本校勤務経験者の先生が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 追跡調査は行っていない。
- ② 主に山口県教職員録で把握することができる。
- ③ 県・市教育委員会事務局や県内学校の管理職・授業力向上指導員として県下全域で幅広く活躍している。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

1. 大学との連携

①『山大へ行こう』

キャリア教育の一環として、本校2年生が山口大学教育学部を訪問、大学の雰囲気を感じることで、視野を拡げると共に、自分の進路について考えるきっかけとする。また、生徒が山口大学教育学部の附属中学校であることの良さを見出し、愛校心を高めることもねらいとしている。

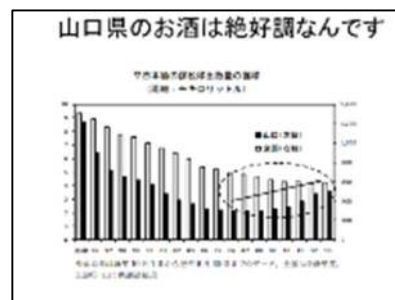
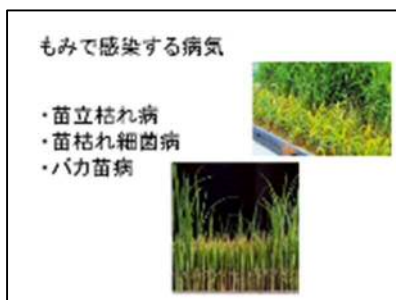
内容は本校校長の講義を全員で受講し、その後、山口大学の講義を参観したり、大学の教職員や学生にインタビューを行ったりする。また、大学内の図書館や学食等の施設を見学、実際に学食で昼食をとる。それらの内容をグループごとにレポートにまとめ、お互いに発表し合う活動を行っている。



②『農業体験学習』

2年次・3年次に総合的な学習の一環として山口大学農学部と連携して、米作りの学習を行う。まず、生徒一人ひとりが育苗箱に種を植えることから始めて、ある程度育ったら、それを大学の農場に運び込み、田植えや収穫体験を行う。

また、農学部が育てたもち米を購入し、餅つきを行ったり、地域の方と連携してしめ縄づくりを体験したりする。体験学習を始めるに際し、山口大学農学部の教授に本校に出前授業に来ていただき、稲の育て方や稲作の意義についての講義を受ける。生徒が一つの目標に向かって一緒に活動することで、人間関係づくりや集団づくりを行う目的も達成することができる。



2. 地域との連携

「白石中学校との部活動対抗戦」

昨年度より、本校と隣接している山口市立白石中学校と、運動部の対抗戦を行っている。両校の運動部が同じ日に一斉に対戦し、対戦成績で勝敗を決し勝利校にトロフィーを授与する大変盛り上がる行事となっている。両校生徒の親睦、同じ学校の他の部活動を応援することで得られる一体感を生み出すこと等をねらいとしている。

また、本校所在地の白石地区では山口市立白石小・中学校を中心とした地域協育ネットに今年度から附属山口小・中学校も参画し、地域連携・地域貢献を発展させる予定にしている。



3. 山口県教育委員会との連携

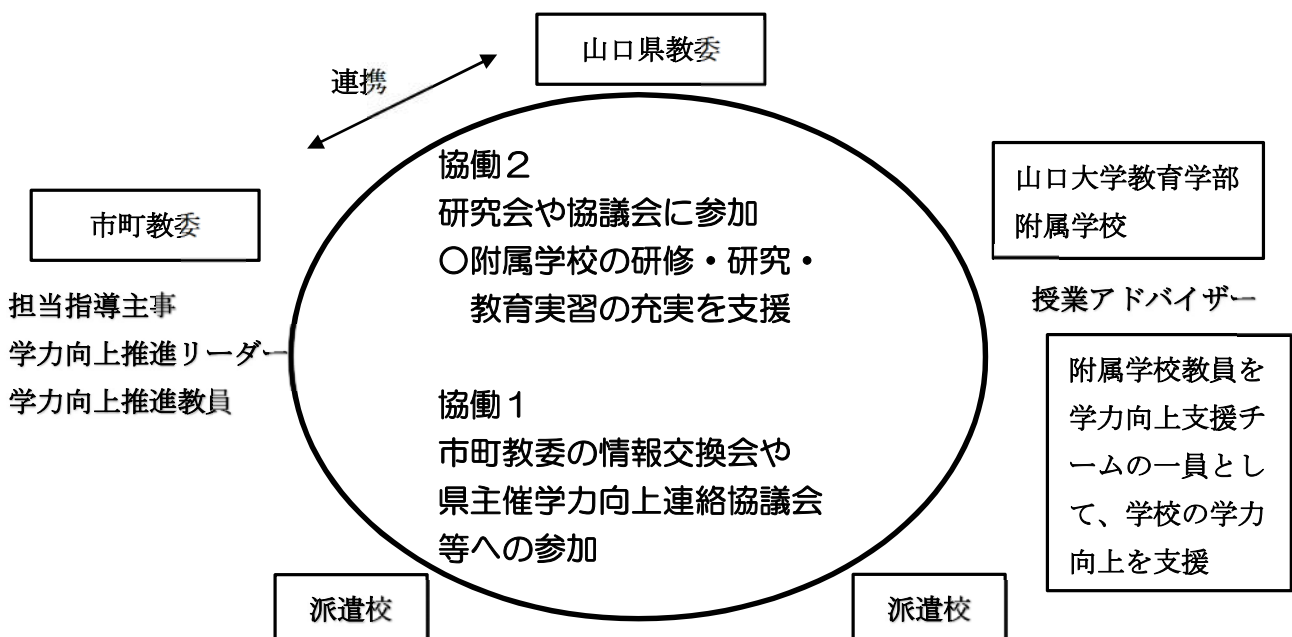
「授業アドバイザー事業」

県・市町教育委員会と山口大学教育学部附属学校が協働し、各市町立学校及び附属学校の教育力向上（授業力向上及び校内研修活性化）を図る目的で行っている事業である。

各地域の公立学校の求めに応じて、附属学校教員が各学校や市町教委の研修会に出向き、授業づくりや組織的、継続的な校内研修体制の構築に向けて支援するもので、各市町教育委員会及び教育学部実践センターと協働して取り組んでいる。

*授業アドバイザーイメージ図

学力向上推進チーム



4. 小中一貫校構想

山口大学の第3期中期目標・中期計画（平成28年度～33年度）に沿って、小中一貫教育カリキュラムに基づいた指導を実施することができるように年次的に取り組んでいく。

更に、附属特別支援学校、附属幼稚園とも連携し、より充実した附属一貫校となるべく教育研究を推進していく。



地域において、現在、本校はどのような存在であると考えているか：

前述したように、本校の卒業生は県内外の様々な場面で活躍しており、数多くのリーダー的な人材を輩出してきた。卒業生の子弟も多く入学するなど、同窓生の結びつきも強い。また、教育の面では、教育研究及び教育実習において確かな実績を残し続けており、山口県教育の人材育成において重要な役割を果たしてきた。地域の政治・経済・教育等、幅広い分野で本校の果たしている役割の大きさが地域において認知されている。

附属学校の存在意義、本校の存在意義について：

本校は建学以来、山口大学教育学部の附属中学校として、研究校・実習校・義務教育校の3点を柱とした重要な役割を果たしてきており、同窓生は広く地域の発展に寄与している。また、本校の歴史と伝統を大切にしながら、国や県の教育改革の方向性を取り入れ、大きく変化し、進化し続けるべく、その進むべき方向性を模索している。今後、小中一貫校構想を柱として、更に教育研究を積み重ねていく。

今年度、山口大学教育学部に教職大学院が設置され、今後、附属学校の果たすべき役割はますます大きくなっていくことが予想される。特に、本県の教職員の人材育成において、教育実習や現職教員の研修等で着実に貢献しており、その存在意義は今後更に高まっていくと思われる。